

平成24年度の事業概況

主要勘定の状況

預金

預金残高は前期比2,291百万円増加し、109,226百万円となりました。定期性預金は公金預金が増加したものの、個人の定期預金が減少したことから前期比339百万円減少しました。一方、要求性払預金は個人預金、法人預金ともに大きく増加し、前期比2,630百万円増となりました。総預金に占める個人預金の割合は82.8%（前期末比▲1.0%）となりました。

預金残高の推移



個人預金残高の推移



貸出金

貸出金残高は前期比463百万円増加し、58,268百万円となりました。個人向けや飲食業、製造業への貸出残高は減少したものの、地方公共団体向け貸出が505百万円増加したほか、不動産業、医療福祉事業への貸出も合計で544百万円増加しております。

貸出金残高の推移



個人向け貸出残高の推移



預け金、有価証券

預け金とは、預金の支払準備、手形交換決済資金、為替決済資金の他、余裕資金運用としての定期性預金などで信金中央金庫やその他の金融機関に預けている預金のことです。平成24年度は前期比212百万円減少し、23,056百万円となりました。

有価証券は収益資産であるとともに、現金・預け金に次ぐ支払準備資産となるもので、その運用に際しては流動性、健全性の確保に努めています。平成24年度は前期比2,079百万円増加し、33,551百万円となりました。

預け金残高の推移



有価証券残高の推移



損益の状況

業務純益

平成24年度の業務粗利益は資金利益の減少により前期比78百万円減少しました。ただ、一般貸倒引当金の戻入が増加したことや経費が減少したことから、業務純益は前期比24百万円増加の290百万円となっております。業務純益とは、一般企業でいう営業利益にあたるもので、金融機関の収益力を示す重要な指標です。

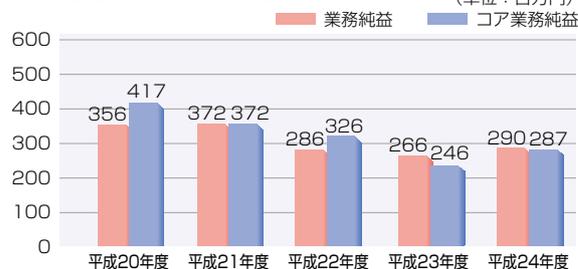
また、平成24年度の当金庫のコア業務純益は、前期比40百万円増加の287百万円となりました。業務純益から一般貸倒引当金繰入前、有価証券売買損益控除後のコア業務純益は、金融機関の本来業務による純粋な収益力を表す指標です。また、コア業務純益は不良債権処理のための原資になるものでもあり、不良債権処理能力を測る点でも注目されております。

(単位：百万円)

科目	平成23年度	平成24年度
業務純益①=(②-④-⑤)	266	290
業務粗利益②	1,852	1,774
うち国債等債券関係損益③	△14	△41
一般貸倒引当金繰入額④	△34	△44
経費(臨時的経費を除く)⑤	1,621	1,529
コア業務純益(①-③+④)	246	287

業務純益・コア業務純益の推移

(単位：百万円)



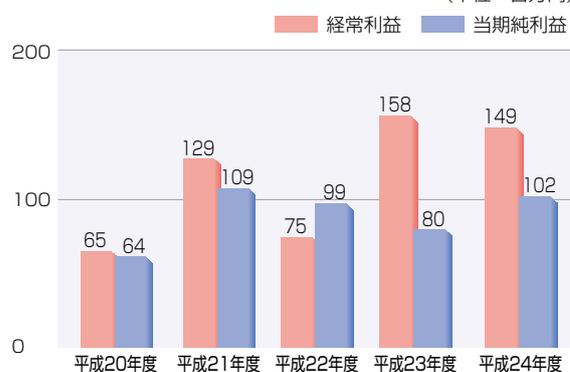
経常利益・当期純利益

経常収益は2,219百万円(前年度比△4百万円、0.21%減少)となり、経常費用は2,070百万円(前年度比+5百万円、0.25%増加)となったことから、経常利益は149百万円(前年度比△9百万円、6.22%減少)となりました。

また、当期純利益は102百万円(前年度比+22百万円、27.45%増加)となりました。

経常利益・当期純利益の推移

(単位：百万円)



トピックス

総合口座通帳と年金受取専用口座(万年青)を24年12月より刷新しました。ユニバーサルデザインを採用し、また環境にやさしいエコ通帳として素材についても見直ししました。是非ご利用下さい。

